

地方必用三

和書門
類號函架冊
一六八五
一四一
一四一

內閣文庫
和
一六八五
一四一
一四一
左

內閣文庫	番號	和 16863
	冊數	8 (3)
	函號	182 135

共十冊

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007. TM: Kodak



三 淺草文庫



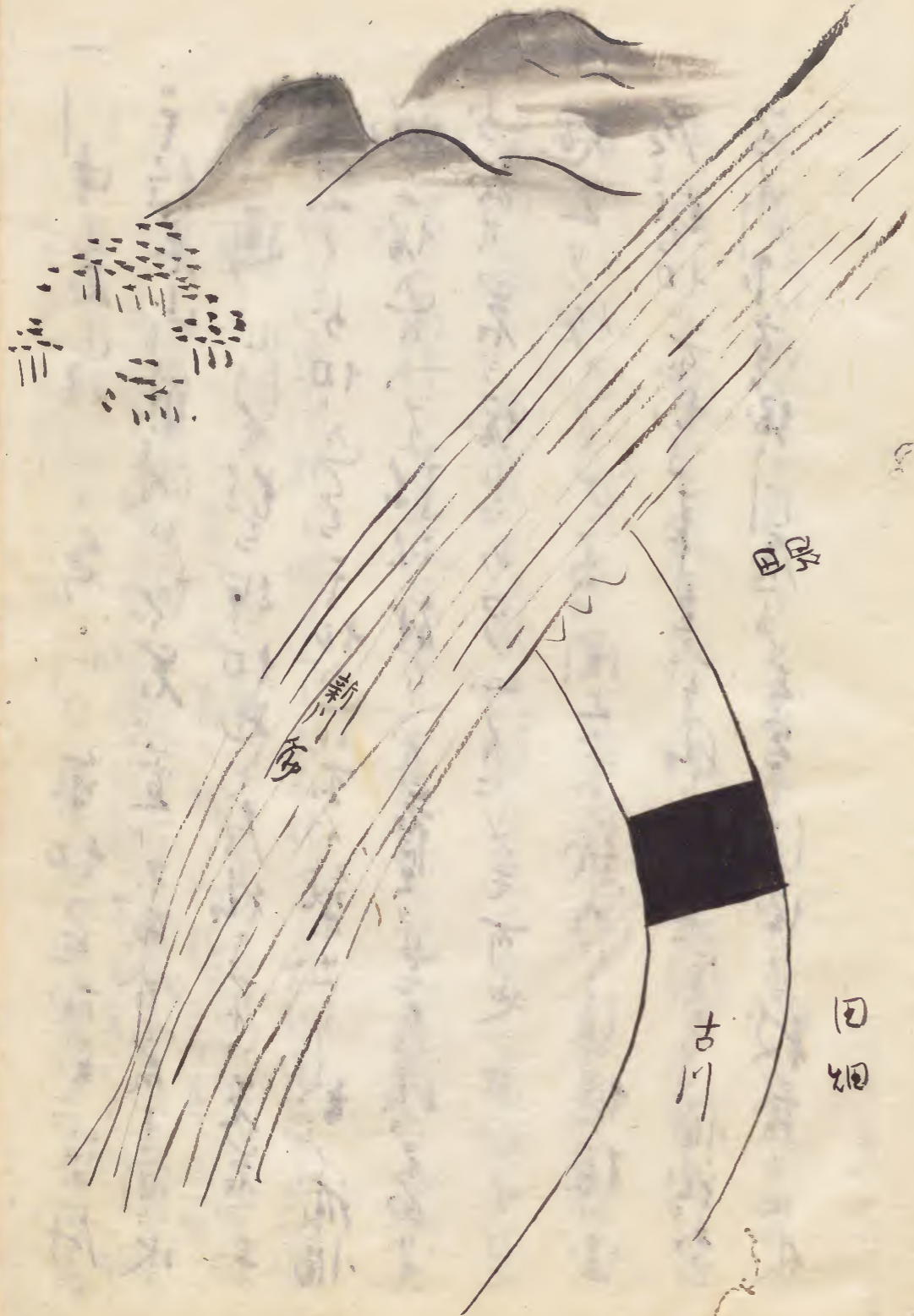
一、大いなる能く如き礼状大石ら如き築切草大いなり
遠く彼らへ眼心も陽而も考肝要也

二、小段下川合ッ之候堰堤主候堰か此之拾間も
四五拾間川大小強弱も依リ下ッて可築切く是

三、一とハく、築堤とハ間を以て社々なりハ 閉結ッ
入ッともあるハ、菅葉竹、大いなるを大い合ッスヘシ

四、人口合ハ、下ッて保キ、社々成、下ッて是、
菅葉竹、大い合ッスヘシ、
五、菅葉竹、大い合ッスヘシ、

六、菅葉竹、大い合ッスヘシ、



一 達那の川に堤新田を築き又は堤切を築く川を築くは
 堤を築くといふと堤を築く法は平を築く堤ノ骨を築くといふ也
 昔の川ノ入車なり



花巻
 上ノ部ニ入
 下ノ部ニ入
 心筋

川下
 堰堤
 地盤
 川上
 西
 東

一 堰形ツ流、公儀ト上ル事、之勿論、後号ラモスヘト又細キ
 以、其ノ如クノ本ツ以、龍ノ如クニ、切リ置、以、龍ノ目ツ書キ、其、紙
 の上ニ、糊、ラ、付、テ、ヨシ、其、ノ、不、以、其、紙、ヲ、法、テ、名、シ、固、ク、紙
 お、熟、シ、モ、裏、オ、ス、ヘ、シ
 一 堰ノ川上ノ向、シ、カ、岩、山、カ、マ、リ、シ、ク、石、石、高、ク、シ、テ、強、ク
 堰、ト、高、シ、ヘ、シ、ク、シ、テ、下、ノ、水、ノ、大、ノ、龍、ヲ、お、わ、り、シ、テ、其、心、筋
 計、テ、不、以、其、法、堰、ノ、為、ニ、シ、テ、事、ナ、シ

一 八ノ車儀ッ体リを悪シ治先ノ地形ノ低ク堪テ伏テ
トシモ治クニテ神ノ去ラ堅メ能キ松ッ伏セテ
相眼ヲ能活メリ堪テト能ク合ニテ松久重悪コ
又地難杯ハ松ッ伏リニ板ノ際ッ重リ弱ニ成ル
松ニニケ不珍ヲ故ス車ニモナリ

一 吐ハ先四ノ同モ大古ノ地儀ニも眼ヲ能活メリ
子ノ御ノ由ルニ下ノ水ヲ指シ付松ノ斗ニ吹テ
有リ也地ノ水弱ニ氣味ニ成ルニ
之ノ氣味ニ成ルニ水ヲ指シ付松ノ斗ニ吹テ又松ノ

戸前を前後ニケ有ニ松ノ水ニも用水を以テ松ノ川
上ノ水ニ成ルニ神儀ヲ築生ラ有ニ用ノ所ニ
指シ付松ノ水ニ弱ニ成ルニ
一 八ッ伏リ也地形ノ高トシスルニ松ノ長幅地ニ
有ニ堅ク射射全相ニ方ッカニ堪ルヲ
入テ地形ト有トシスルニ合ニテト知ル事ナリ
一 高シ堪ル事ナカニ松ノ水ニも多ク有ルニ
ニモ攪メリ也同ノ水ニカ延ル事ナカニ
スルニ堪ル一花ナリ事ナカニ能通攪メリ

乙新の船ヲ海ク
 村ヶ分保水船シ
 竹籠ノ後(運金)
 築切ト云ふ系
 七八年スエー一
 礼祝ヲおー上
 ニケ石ノおし付板
 地門ノ角ヲ切ル
 口付

乙新の船ヲ海ク
 村ヶ分保水船シ
 竹籠ノ後(運金)
 築切ト云ふ系
 七八年スエー一
 礼祝ヲおー上
 ニケ石ノおし付板
 地門ノ角ヲ切ル
 口付



乙新の船ヲ海ク
 村ヶ分保水船シ
 竹籠ノ後(運金)
 築切ト云ふ系
 七八年スエー一
 礼祝ヲおー上
 ニケ石ノおし付板
 地門ノ角ヲ切ル
 口付

一 後尾のしんもはむしむしを後尾に抗おし川中
たふも、しん向の地所を破り別庭にテは方田細たふ
たふ更有に塗らぬを平寛るにらうもぬれ向
不為工丈法を水のたを以て人徳を以て川下
てしと擢りし肝あがり

一 後尾を抗おし腹舟のしん根を捨ち捨舟石
際泥りし流行式、砂留木柵柵水に寛堀
川擢り下りて川心へ又と國法をあらう
不守下者別庭より又及ぼるむし後尾

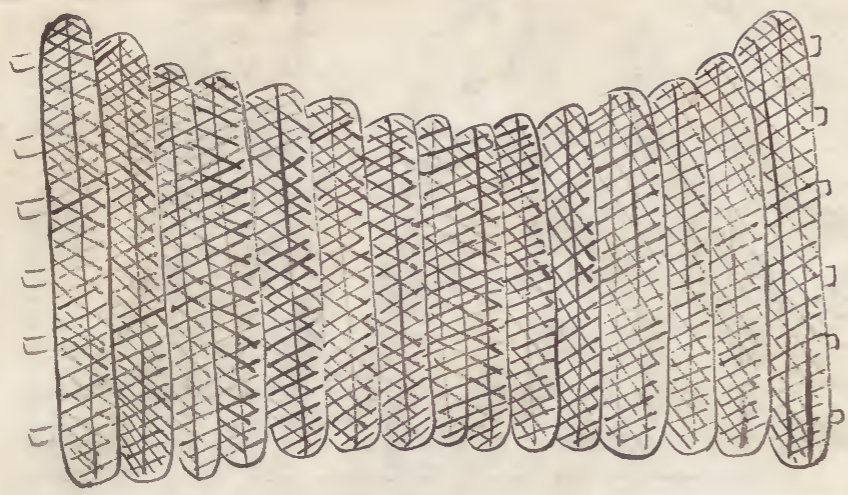
存格川ありしむし有也る成名を年
考成りしむし久貴は存り老人、ふりえし
今、幼女目録思ふ事むし

一 赤田のむし、むし能く中身高きむし性向
とむしむしむしむしむし又よかむしむしむしむし
田、本キむしむしむしむしむしむしむしむし
附りのむしむしむしむしむしむしむしむしむし
むしむしむしむしむしむしむしむしむしむし

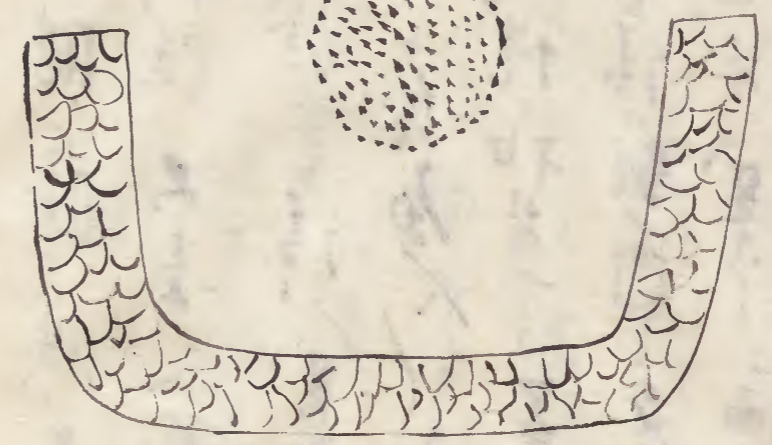
一 有来むし後尾のむしむしむしむしむしむしむし
後尾のむしむしむしむしむしむしむしむしむしむし

乃日向ノ方ヲ人切ニ往ルモ子業ノ故ニ之ニ
あふよとあをわらねばなほ遠く是江ニ在ル然モ雖も
日向ノ方ニ在ル所方ノ方ニ及バテテ業ヲ向
込メテ以テ其ノ方ニ在ル所方ニ及バテテ業ヲ向
シ急ニ往ラト云ル古語ニヤリモ業ニ在リテ其ノ方
方ニ在ル所方ノ方ニ及バテテ業ヲ向
田畑を顧ルル方ニ及バテテ業ヲ向
之方ニ及バテテ業ヲ向
江ノ向ニ在ル所方ニ及バテテ業ヲ向

あり腹を除く腹を如くは換失ふに絶け不
悦川除く人事之能くは向遠慮しては
一悦川除く人事之能くは向遠慮しては
之を以て長身と云ふは其ノ方ニ及バテテ業ヲ向
の根入悦和材ヤモ毫石法法法今吟味之物
其業情の如くは向遠慮しては
之を以て長身と云ふは其ノ方ニ及バテテ業ヲ向
之脚心之若病ハ向遠慮しては
一沙為く事法也

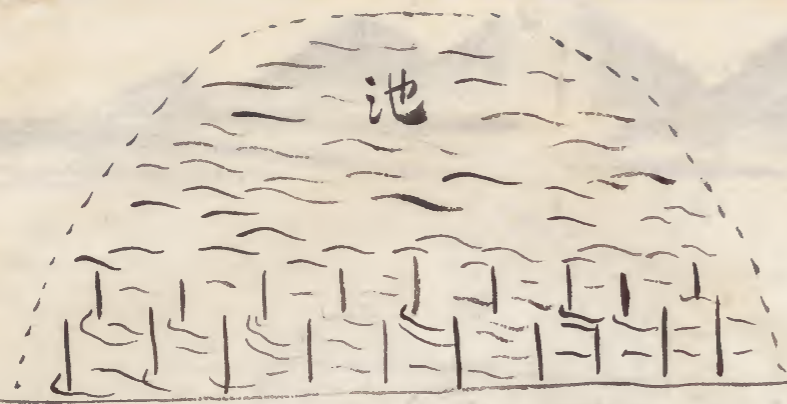


山

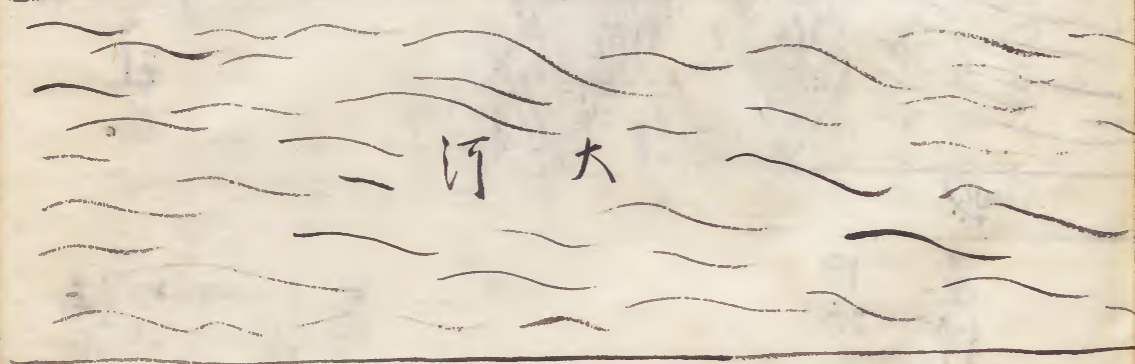


法根よりくまに石堤石堤是堤
 ちり法よりくまに山砂ノ理をくまに
 之よりくまに法よりくまに月之くまに
 同天三十有に下ヶテ法ノ築下
 之砂の地テ長一倍河表二倍
 不し七築年月シ経テ是くまに
 村のくまに全スル一

上水より砂より砂利の堤は
 面のくまに二倍くまに

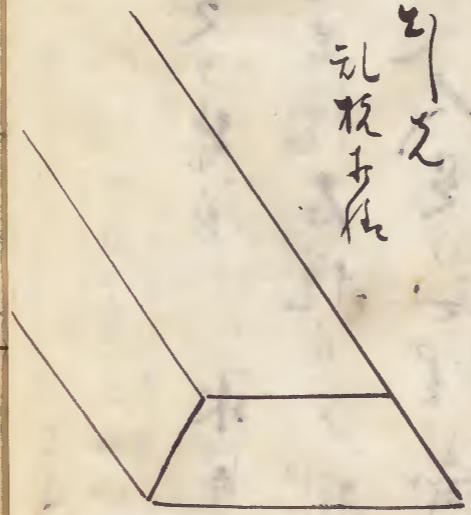
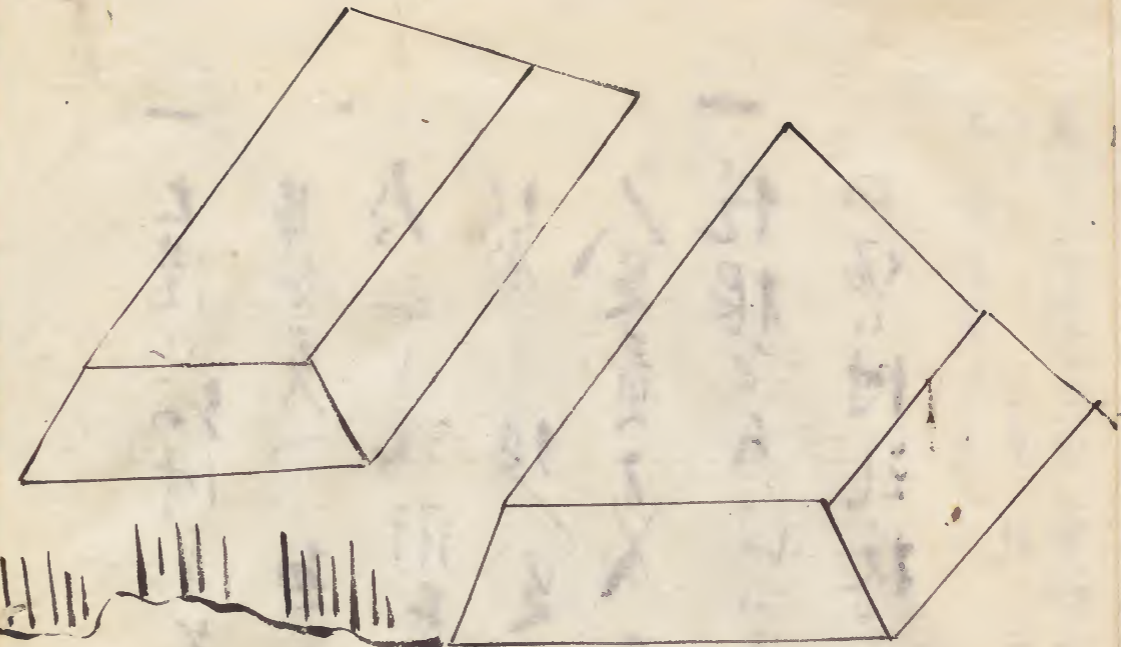


塘

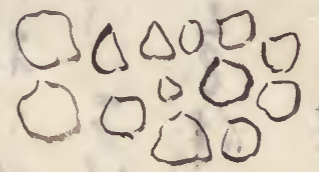


大河

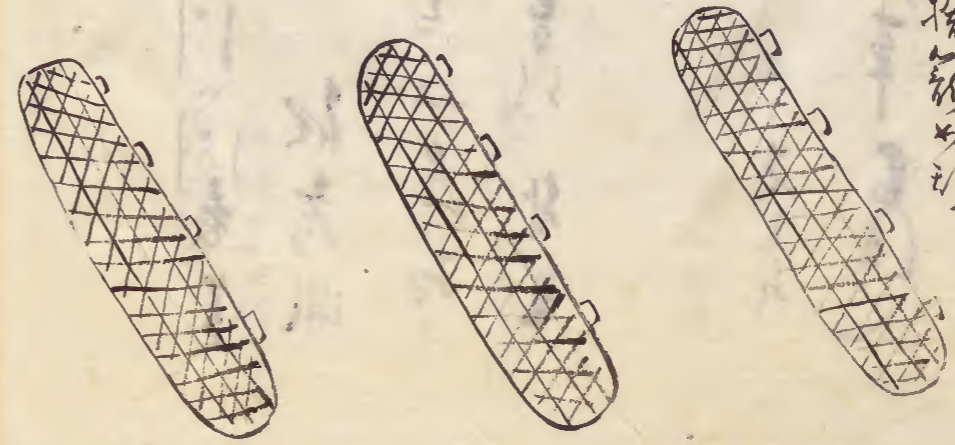
大川に橋を掛けるは
 舟を運ぶに便なり
 舟を運ぶに便なり
 舟を運ぶに便なり
 舟を運ぶに便なり
 舟を運ぶに便なり



石
 石
 石



石
 石
 石



石
 石
 石

一 上方も然し梓人は是れ材にして人は是れ木と云ふ所なり
 一 以て引く地不足高少くは以て餘人は是れ木と掛し
此は引く地不足高少くは以て餘人は是れ木と掛し
 一 山方ト云ふ所なり、和名は新出先府石腰身石ッ
 中 邊あり多し、以て人の元は此の邊に下り
 一 庄に在る所なり、今も下り事なり

松注文

一 松を被長の間 高何尺 横何尺 戸前何口 何部何寸 懸水吐松
 一 蛇杖松 松長何尺 何寸角 式幅何何寸 式用木松
 一 笠木 何部何寸 横長何何寸 厚何何寸 幅何何寸
 一 縁埔居 何部何寸 口何 實東点地 何部何寸
 一 戸を 何部何寸 長何何寸 厚何何寸 幅何何寸
此戸等此木 長何何寸 厚何何寸 幅何何寸
 一 外梓木 何部何寸 長何何寸 何部何寸 何部何寸

一 円棒木の長 長何寸 何寸角 實東三寸五分

一 折上板何枚 棧 長何寸 幅何寸 厚何寸

一 扇子板何枚 右何枚 實東三寸五分

一 烏升木の長 棧長何寸 幅何寸 厚何寸 實東三寸五分

一 木何枚 實東三寸五分 末口何寸

是より上座木の長あり。如木の實東三寸五分は吹賣しりぬる。長クシテ板ノ長ノ半ナラバ此ノ

一 木打板何枚 棧何枚 長何寸 厚何寸

一 鑊尾釘何百本 此は何寸 棧何寸 釘何寸

一 釘 何百本 右何枚 何枚何寸

一 釘 何枚 何枚長何寸 何枚何寸

實東三寸五分

一 板何枚 長何寸 根入何寸 何枚何寸

一 木何枚

一 木何枚

一人足知人

買本之末切しよふ有板、他月ラ堅メハ
也之と百々々切し將之加本かり不ハ



行月行月 限公本積リ

[Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]

